

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	17-025	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>What could keep young people away from alcohol and cigarettes? Findings from the UK Household Longitudinal Study. 若者をアルコールやタバコから遠ざけることはできるか？英国国家計縦断調査の所見</p>		
執筆者		
Cable N, Roman Mella MF, Kelly Y.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2017 May 25;17(1):371.DOI: 10.1186/s12889-017-4284-x		
キーワード		PMID
思春期の行動、幸福感、害意識、英国国家計縦断研究		28539114
要 旨		
<p>目的： 青少年は、共起しそうな危険な行動に弱い。本研究は、青少年の幸福感を検討し、アルコール依存または喫煙関連傷害の意識、および友情ネットワークの大きさが若年者の危険行動に関連しているかについて縦断的に検討した。</p> <p>方法： 英国の 40,000 世帯の人口代表データを毎年収集している英国縦断世帯調査に参加した 10 歳から 15 歳のうち、Wave2 および Wave3 から入手可能な症例 (n=1,729) の青年を解析対象とした。目的変数は、Wavw2, 3 で現在のアルコールまたはタバコの使用を集計した (1=永続的不使用、2=使用前、3=開始、4=持続的使用)。説明変数は、幸福感、アルコールとたばこの使用による傷害の意識、および友情ネットワークの大きさとした。共変量は、性別、年齢、自己申告による健康状態の基礎レベル、宗教的な所属、家庭の社会的地位とした。多項ロジスティック回帰を使用して、永続的なたばことアルコールの使用を参照カテゴリとみなし、想定された関連性について検討した。</p> <p>結果： 解析の結果、青少年の持続的な不使用 (相対リスク= 1.06, 95%CI = 1.01-1.13) と縦断的に関連していた。アルコールやたばこの使用に関連する傷害の認識は、持続的な不使用 (相対リスク = 1.24, 95%CI=1.15-1.35) ならびにアルコールまたはタバコ使用の開始と関連していた (相対リスク = 1.21, 95%CI = 1.11-1.32)。</p> <p>結論： 本結果より、青少年の幸福感とアルコールやタバコ使用に起因する傷害への意識の高まりは、アルコールやタバコから青少年を遠ざける可能性が示された。</p>		